

地方創生推進交付金事業
評価・検証シート
【平成 30 年度実施分】

≪内部評価≫ (100 点満点)

	評価項目	A (13 点)	B (9 点)	C (5 点)	D (1 点)
有効性 (26 点)	KPI 達成への貢献度	最も効果的である	概ね効果的である	やや効果的ではない	効果を見込めない
	総合戦略への貢献度				

	評価項目	A (14 点)	B (10 点)	C (6 点)	D (1 点)
有効性 (14 点)	期待した効果の達成度	最も有効的である	概ね有効的である	やや有効的ではない	有効的ではない

	評価項目	A (10 点)	B (6 点)	C (3 点)	D (1 点)
効率性 (30 点)	コスト効率	最も効率的である	概ね効率的である	やや効率的ではない	効率的ではない
	手段の最適性	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
	受益者負担は適切か	最適の方法である	概ね適切である	やや適切ではない	適切ではない
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な技術はあるか	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない
	必要な財源の見通し	大いに認められる	概ね認められる	やや認められない	全く認められない

総合評価

	得点率	得点	目安となる考え方
A	80%以上	80 点以上	計画通りの実施が適当
B	79~50%	79 点~50 点	一部見直しで足りる程度
C	49~20%	49 点~20 点	見直すべき項目がある
D	19%以下	19 点以下	事業の統合、廃止等の検討が必要

伝統の食と農でつなぐ人と地域にやさしいまちづくり

平成 30 年度事業額：12,000,000 円（総事業費：98,500,000 円）

交付金充当額（補助率 1/2）：6,000,000 円（総交付額：49,250,000 円）

評価対象期間：平成 30 年度（事業実施期間：平成 28 年度～平成 30 年度）

《事業の概要》

- ・津島市に來訪する人をもてなすことができるよう、地元の農作物を使った商品開発や、レストランを開設するなどの起業化を図る。
- ・使用する農作物は、消費する場に近い市街化区域内の農地に開設する、人と人や、食と農をつなぐ農場である「農縁」で生産したものをはじめ、地元で生産されたものを中心に利用する。また、農業生産のノウハウを学んでもらうため、農業塾を開設する。
- ・「農縁」の運営は、開催するセミナー等で農業生産に関心を持った人などで組織したグループ等により自立運営を行う。

《事業の進捗状況》※主な事業を記載



《「みんなパタ」食・農講座の開催》

- ・講座開催により、「みんなパタ」活動の認知を高め、2018 年 10 月にオープンしたレストラン施設を食・農の拠点として周知を行った。（参加者 102 名）



《みんなパタ農業塾の運営》

- ・津島市宇治町の畑にて年間を通じて開催した。申込があった 22 組に対して区画を割り振り、毎週木・土曜日に実技指導を行った。
- ・体験型の各種ワークショップを開催したほか、11 月には大収穫祭を開催し、多くの人が参加した。（参加者 233 名）



《レストラン・加工施設の運営》

- ・開業準備及び開業に必要な「担い手の確保育成」「食材提供の仕組みづくり」「広報活動」等の各種支援を行った。
- ・レストラン運営について営業全般の管理監督を行い、2019 年度以降も営業可能な体制の構築を行った。

その他事業について

	事業名	概要
1	試験栽培	レストラン標準利用品目の栽培を行った。
2		
3		
4		

≪KPI の状況≫

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		H28. 8	H29. 3	H30. 3	H31. 3		
指標 1	事業への参加者数 (人)	0	20 (増加分)	50 (増加分)	150 (増加分)	220	最終年度も参加者を充分確保できた。
	実績値						
	参加者		137	430	345	912	
	前年度比		+137	+293	△85	345	

≪成果≫ ※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

自立運営体制の構築を始めとして全体的にスケジュールの遅れはあったが、概ね計画通りに事業を進めることができた。「みんなパタ食・農講座」では、前年に比べより意欲的な参加者があつまり、本事業の担い手の確保及び KPI の目標値の達成に寄与することができた。

≪事業の課題≫ ※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

担い手の確保により自立運営体制は整い、今後はより安定した収入を確保していくための事業間連携を図る必要がある。

≪内部評価≫

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	A	KPI は最終目標値を上回っており、効果は出ている。他の事業との連携もとれており相乗効果が得られた。更なる相乗効果を得るべく情報共有が必要。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	B	自立に向けた、農業塾やセミナー等の会費による事業実施の採算性を確立することが出来た。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	B	自立運営体制は整ったが、当初計画の法人化には至らず今後の課題。事業継続のノウハウは熟知しており、事業収入も見込める。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	B		

≪今後の展開≫

2018 年度をもって事業実施期間が終了し、自立運営組織による運営となるが、引き続き関係者と連絡調整を行い、本事業の趣旨が継続されるよう各種支援を行う。

担当部局： 建設産業部 / 担当課： 産業振興課

寺院と町家を活用した滞在型観光による 地域再生プロジェクト

平成 30 年度事業額：10,000,000 円（総事業費：48,440,000 円）
交付金充当額（補助率 1/2）：5,000,000 円（総交付額：24,220,000 円）
評価対象期間：平成 30 年度（事業実施期間：平成 28 年度～平成 30 年度）

《事業の概要》

- ・【現状・課題】
- ・本市は、毛織物業で繁栄したが、毛織物業の衰退に伴い、祭以外の時は賑わいがなくなってきている。
- ・また、津島駅西地域はお寺も多く、観光資源が豊富であるが、宿泊施設がなく、観光客の滞在時間が短い。
- ・加えて、空き家が多く、天王通り周辺は約 20%が空き家である。
- ・【目的】
- ・空き家を改修して宿泊施設を造り、観光客の滞在時間を延ばす。
- ・また、お寺で坐禅体験等をできるようにして、観光客が祭以外の時でも楽しめる要素を増やす。
- ・こうして、祭以外の時も東京・大阪等の大都市圏、海外から観光客を増やし、まちに賑わいを取戻す

《事業の進捗状況》※主な事業を記載



【愛知】＜滞在型観光900円OFF＞到着吉屋・津島體驗傳統文化～和服租借・抹茶體驗・住居的賞旅行（對體障者適宜）

《旅行商品の企画・実施事業》

- ・台湾・香港に影響を持つ日本観光情報サイト「ラーチーゴー！日本」で、当サイトの台湾人スタッフとともに旅行商品を企画し、販売を行った。
- ・上記と同内容の旅行商品を HIS 北京支店、HIS の Facebook、hisgo（インバウンド向け旅行商品販売サイト）でも販売した。



《広告宣伝事業》

- ・「ラーチーゴー！日本」の台湾人ライターを招請し、着物・抹茶体験と併せて市内を撮影してもらい、当サイト内に記事掲載を行った。
- ・アジアの個人旅行者向け中部地域の観光情報フリーマガジン「GOOD LUCK TRIP 中部」に、津島の記事を 4 ページ掲載した。



《寺院を活用した周遊促進事業》

- ・名古屋外国語大学の学生の調査で本市の寺密度（寺の数/面積）が東海三県の全市町村の中で最も高いことが分かったことをきっかけに、貴重な観光資源である寺院を活用して御朱印授与、講話等を行うイベント「てら・まち御縁結び」を 7、9、12、2 月の各月 1 回ずつ、計 4 回開催し、延べ 5,481 人の参加があった。複数の寺院で多発的に行うことで、回遊性が高まった。

その他事業について

	事業名	概要
1		
2		
3		
4		

《KPI の状況》

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		H28. 11	H29. 3	H30. 3	H31. 3		
指標 1	滞在型交流人口 (人)	0	100 (増加分)	1,000 (増加分)	5,000 (増加分)	6,100	目標値を上回った。
	実績値		88	638	6,404	7,130	
指標 2	空き家等利活用件数 (軒)	0	1 (増加分)	4 (増加分)	0 (増加分)	5	目標値をやや下回った。
	実績値		1	3	0	4	

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設について、国内は 39 都道府県、国外は 21 の国や地域の人に宿泊してもらうことができた。 ・昨今の御朱印ブームと相まって、「てら・まち御縁結び」には全国から多くの人を訪れ、リピーターもできた。さらに、来訪者が SNS で拡散することにより、津島の認知度が向上した。 ・広告宣伝事業では、9月から3月中旬までで延べ約 2 万のリアクション (PV 数、「いいね」のプッシュ数等) があり、アジアを中心とする海外にも認知度を上げることができた。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

<ul style="list-style-type: none"> ・「てら・まち御縁結び」で多くの参加者数が市内で飲食をしたが、お土産等の購入には至らなかった。 ・旅行商品の企画・実施事業では、PV 数に相反して予約には至らなかった。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40 点)	KPI 達成への貢献度	A	寺院を活用したイベントを開催したことで、津島の知名度が向上し、交流人口の創出につなげることができた。	B
	総合戦略への貢献度	A		
	期待した効果の達成度	A		
効率性 (30 点)	コスト効率	B	インバウンド事業については手法に課題は残ったが、寺院を活用したイベントは SNS 等での拡散により、効率的にできた。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30 点)	必要な体制は整っているか	B	需要に合わせた体制を整えつつ、これまでの取組で得た技術等を活かし、財源の確保に努める必要がある。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	C		

《今後の展開》

<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストハウスは宿泊施設としての機能のほかに、観光客の交流の場となるような仕掛けを構築し、さらなる来訪者や滞在時間の増加や宿泊施設の経営的自立を図る。 ・寺院を活用した「てら・まち御縁結び」等のイベントは今後も継続していくこととし、来訪者が地元店舗でお土産等の購入をする仕組みを展開していく。 ・インバウンドについては、藤まつりや天王祭など、視覚的にわかりやすいものを他自治体と PR していく。
--

担当部局： 市長公室 / 担当課： シティプロモーション課

平成 30 年度事業額：4,999,320 円（総事業費：33,611,720 円）

交付金充当額（補助率 1/2）：2,499,660 円（総交付額：16,805,860 円）

評価対象期間：平成 30 年度（事業実施期間：平成 28 年度～平成 30 年度）

《事業の概要》

核家族の増加、生活スタイルの変化等により、地域の人々の絆や結びつきが弱まることで、住民同士の関係が希薄となり、地域のことを地域で解決する共同管理の仕組み「地域コミュニティ」の衰退が顕著になってきています。本事業では、地域に住む高齢者から子どもまでの多様な世代の人が気軽に集い、交流できる場である「縁側カフェ」を設置、地域住民が運営することで、顔と顔の見える関係を築き、「地域コミュニティ」の再活性化を図ります。

- ・地域の担い手を育成するとともに、地域で共同管理する仕組みを再構築し、スモールビジネス化することで持続可能なものとする。
- ・コミュニティの再活性化と合わせて、空き家等の老朽化による地域住民の不安解消にも繋げる。

《事業の進捗状況》※主な事業を記載



《お互い様講座及び担い手育成講座の実施》

- ・神島田小学校区において、地域住民と共に地域資源の洗い出しを行い、どこで・どのようなことができるかの検討を行った。（計 3 回）
- ・地域における担い手育成の講座を開催した。（計 3 回）



《おためしイベントの開催》

- ・担い手育成講座における企画立案講座から派生したイベントを開催した。
- ・地域資源であるお寺を活用して、小学生が企画立案した遊びコーナーや、地域の方による体操、ぜんざいの提供など人財を活かしたイベントとした。また、フリーマーケットや協力金などによる資金の生み出しも試みた。



《地域の居場所づくりの検討》

- ・地域住民の居宅の一室を活用した、地域の居場所づくりについて検討した。
- ・利用者として想定される方々と、どのような居場所とするか、どのようなものを整備するか、利用方法についてなどを検討した。

その他事業について

	事業名	概要
1	縁側カフェ「えん」運営委員会	平成 29 年度に設置したモデル施設について、定期的に運用の見直しを行った。
2	利用者による評価	縁側カフェ「えん」利用者アンケートを行った。
3	全市域への施設展開に向けた方策の検討	全市域への施設展開に向けて検討を行った。

≪KPI の状況≫

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	最終目標値の実施状況 に関する評価
		H28. 11	H29. 3	H30. 3	H31. 3		
指標 1	交流施設の利用者数 (人)	0	0 (増加分)	100 (増加分)	100 (増加分)	200	目標値を大幅に超える 実績値となり多大な効果 をもたらした。
	実績値		0	145	670	815	

≪成果≫ ※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

縁側カフェ「えん」については多くの方・団体に利用され、収支の上からも安定した運営が行われている。また、当初の予定にはなかった新たな地域の居場所についても開設に向けて順調に進んでいる。

≪事業の課題≫ ※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

地域の居場所について徐々にではあるが一定の認知を得始めている。今後も、市内全域への展開に向けて、他の地域へ波及させることが必要である。

≪内部評価≫

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	A	地域が必要とするものを一から地域と考えることにより、多くの協力を得ながら地域の実情に合った居場所を設置することができた。また、地域になくはならない施設として多くの方・団体が利用し交流が生まれている。	A
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	A		
効率性 (30点)	コスト効率	A	「えん」については、収支の上からも安定した運営が行われ、また、運営委員会においてより効果的な運営について見直しを行っている。30年度モデル地域においては、コストをかけない地域資源活用を重点に置いた運営を施行しているため、2パターンの運営について今後も検討が必要となる。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	B	今後も更なるスキルアップを図り、より効果的な運営について検討をする必要がある。財源については、スモールビジネス型と地域資源活用型の2パターンにより、安定した運営が行われる見通しである。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	A		

≪今後の展開≫

モデル施設の検証・改善を行いながら、新たな地域において居場所づくりの検討を行う。

担当部局: 市民生活部 / 担当課: 市民協働課

みんなで発見・発信・おもてなし！

津島 “にぎわい” 創出プロジェクト

平成 30 年度事業額：14,000,000 円（総事業費（見込み）：42,750,000 円）

交付金充当額（補助率 1/2）：7,000,000 円（総交付額（見込み）：21,375,000 円）

評価対象期間：平成 30 年度（事業実施期間：平成 29 年度～平成 31 年度）

＜事業の概要＞

- ・本市の魅力的な歴史・文化を活用して、地域住民と協働で回遊・発信・おもてなしをする環境づくりを推進し、“にぎわい”を創出することが最重要の課題である。
- ・そのために、参加者を募集して津島の魅力ある地域資源を回遊できる「まち歩きツアー」、映像の制作を通じて市の魅力づくりや情報発信の手法を学ぶ「映像づくりワークショップ」、来訪者に対する接遇を学び、積極的におもてなしに取り組む「津島おもてなしコンシェルジュ育成講座」等を実施する。
- ・上記事業の実施を通して、津島市まち・ひと・しごと創出総合戦略等に掲げる「稼げるまち」、「住んでみたいまち・住み続けたいまち」「若者・女性が活躍できるまち」への課題・問題の解決を図る。

＜事業の進捗状況＞※主な事業を記載



＜まち歩きツアーの開催＞ 所管：シティプロモーション課

10月～翌3月の土日の計15日間と藤まつり期間中の計4日間に、市内店舗、寺社等をツアーに組み込んだ、有料の「まち歩きツアー」を実施した。当日のガイドに加えて、ツアーの企画・店舗等の調整もおもてなしコンシェルジュ自らが行った。参加者に満足できるツアーを提供できた。（参加者191名）



＜映像づくりワークショップの開催＞ 所管：シティプロモーション課

市の魅力向上、発信力がある人材の確保・育成をするため、「映像づくりワークショップ」を開催した。完成した短編映画2編は上映会で公開した。また、YouTube やクローバーTV で放送して広く周知することができた。（参加者21名）



＜津島おもてなしコンシェルジュ育成講座の開催＞ 所管：産業振興課

多くの市民、来訪者に対して、おもてなしができる人材を育成するため、周知用のチラシを作成・配布して広く受講者を公募し、歴史に関する講座、おもてなし・接遇に関する講座等を開催した。合格者には認定証を授与した。（認定者26名）

その他事業について

	事業名	概要
1	リアルご当地検定の実施	主な参加者である若者に人気な謎解きゲームに改良して実施した。
2	津島詣マップの作成	大学生が作成した広域観光マップをホームページに掲載周知した。
3	津島 OSHI、津島おもてなしステーションの募集・登録	情報発信する人及びおもてなしをする店舗等を募集した。
4	短編小説コンテストの開催	津島を舞台とした短編小説を募集し、受賞作品集の冊子配布等を行った。

《KPI の状況》

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	中間目標値の実施状況 に関する評価
		H29.4	H30.3	H31.3	R2.3		
指標1 指標4	「まち歩きツアー」と「リアルご当地検定」の合計参加者数(人)	320	600 (増加分)	1,500 (増加分)	3,600 (増加分)	5,700	ニーズに合ったプランと積極的な周知ができたため目標値を達成できた。
	実績値		189	2,147	-	2,336	
指標2	「映像づくりワークショップ」参加者数と「津島おもてなしコンシェルジュ」認定者数の合計者数(人)	89	70 (増加分)	81 (増加分)	120 (増加分)	271	地元の学校に十分な周知ができず若者の参加が少なかった。
	実績値		41	47	-	88	
指標3	「津島 OSHI」と「おもてなしステーション」の合計登録者(箇所)数(人・箇所)	176	105 (増加分)	120 (増加分)	159 (増加分)	384	津島 OSHI 登録促進チラシの配架だけでは登録に結びつかなかった。
	実績値		22	5	-	27	

《成果》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

おもてなしコンシェルジュが主となって体験型を重視したツアーを企画・実施できたため、参加者から高い満足度と円滑な運営体制を確立できた。また、情報発信・おもてなしの技術や熱意をもった人材を確保・育成できた。ただ、効果的な周知まで実現できなかったため、KPI 未達成の事業があった。

《事業の課題》※事業の進捗状況と KPI を踏まえて記載

ターゲットである大学・高校への参加等の周知に努めたが、参加費負担等の条件により参加者が少なくなり、KPI を達成できなかった主な要因だと考えられる。

《内部評価》

	評価項目	評価	評価について	総合評価
有効性 (40点)	KPI 達成への貢献度	B	参加者の満足度が高く、おもてなしする人材等を育成できたため、KPI や目標とする成果に貢献できている。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	A	必要最低限のコストで事業を運営しつつ成果を出しているが、参加費が安価で十分な利益を確保できていない。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	C		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	B	必要な体制は整ってきたが、十分な利益が上がっていないので、地元店舗からの支援等、事業を継続できる仕組みを構築する必要がある。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	C		

《今後の展開》

地元店舗等の活性化への寄与、情報発信・おもてなしの人材確保を目指して、参加者のニーズに沿った事業と積極的な周知を引き続き実施する。また同時に、事業の収益化・スリム化にも取り組むことで、自立した事業運営を目指していく。

担当部局： 市長公室 / 担当課： シティプロモーション課

天王信仰の総本社「津島神社」への参道を核とした 門前町再生事業

平成 30 年度事業額：9,999,720 円（総事業費（見込み）：27,607,920 円）
交付金充当額（補助率 1/2）：4,999,860 円（総交付額（見込み）：13,803,960 円）
評価対象期間：平成 30 年度（事業実施期間：平成 29 年度～平成 31 年度）

《事業の概要》

名鉄津島駅から津島神社までの「天王通り」は、かつては通りの両側に商店が軒を連ね、津島神社までのメインストリートとして多くの人が行き交う活気にあふれた大通りでしたが、現在は空き店舗が増加しシャッター街化が進行しており、地域の活力が失われています。本事業では、「天王通り」を津島神社への参道と見立て、門前町の再生からまちの賑わいを創出します。

- ・天王通りの空き店舗への出店を促進するため、物件リストを作成し、出店希望者とのマッチングを行うシステムを構築する。
- ・店舗にて体験型の商業プログラムのシステム開発及びサイトを立ち上げる。
- ・天王通り沿いの活用方法について、全国から提案されたアイデアを参考に地域ワークショップを行うことで、商店街の機運を高めるとともに、将来の方向性を検討する。

《事業の進捗状況》※主な事業を記載



《マッチングシステム運用事業》 所管：産業振興課

空き家や空き店舗の所有者と出店希望者を結びつけ、出店を促進するために、平成 29 年度に構築したマッチングシステムの試験運用を開始し、4 店舗を出店に結びつけることができた。また、平成 29 年度に引き続き、空き家の物件リスト作成や、空き家見学会（見学者 19 人）を開催した。



《体験プログラム運用事業》 所管：産業振興課

平成 29 年度からの店舗に加え、市内で体験プログラムに関心がある店舗への働きかけ、坐禅や写経などのお寺体験をプログラムに含めることで、メニュー数を増やした。また、参加者アンケートの分析結果をもとに、お店の方とプログラム内容の磨き上げを行った（参加者 911 人）。



《まちづくりワークショップ開催事業》 所管：都市計画課

天王通り沿線にお住まいの方をはじめ、多くの方に参加を呼びかけ、天王通りの賑わい創出に向け、沿線の町並みや既に決定されている都市計画道路のあり方などについて、歩行者優先の道路整備など一定の方針を取りまとめた。

その他事業について

	事業名	概要
1		
2		

≪KPI の状況≫

	指標名	基準値 (現状値)	中間 目標値		最終 目標値	累計	中間目標値の実施状況 に関する評価
		H29.4	H30.3	H31.3	R2.3		
指標1	体験プログラム参加数(人)	0	500 (増加分)	2,000 (増加分)	5,000 (増加分)	7,500	目標値を達成できなかったが、アンケート結果では、約9割の方がプログラム内容に満足していた。
	実績値		197	911	-	1,108	
指標2	空き家・空き店舗出店数 (店舗)	0	0 (増加分)	5 (増加分)	10 (増加分)	15	目標値にわずかに届かなかったが、津島商工会議所との連携により、意欲的な出店者を見つけることができた。
	実績値		0	4	-	4	

≪成果≫ ※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

- ・体験プログラムは、プログラム内容の磨き上げを行い、専用ホームページやリーフレットによる情報発信に加え、InstagramなどのSNSによる発信を始めたことで、前年度より大幅に参加者数を増やすことができた。
- ・マッチングシステムは、出店した4店舗のうち3店舗が、天王通り沿いにオープンした。飲食2店舗と雑貨1店舗の出店により、今後の天王通り沿いの活性化につながっていくことが期待できる。

≪事業の課題≫ ※事業の進捗状況とKPIを踏まえて記載

- ・体験プログラムについては、事業PRが未だ足りていないことが、目標値未達成の原因の1つと考える。これまでに構築した専用ホームページやSNSを積極的に活用するとともに、リーフレットのデザインの見直しや配布先エリアを広げるなど、これまで以上に事業PRを行う必要があると考えている。
- ・マッチングシステムについては、天王通り周辺に空き家は多いが、所有者の理解を得て利活用できる物件は少ない。事業内容やこれまでの実績を積極的にPRし、所有者などの理解を得る必要がある。

≪内部評価≫

	評価項目	評価	評価について	総合 評価
有効性 (40点)	KPI達成への貢献度	B	体験プログラムについては参加者の満足度は高く、周知PRやメニュー数を増やすなど工夫したことで、前年度より参加者を大幅に増やすことができた。また、マッチングシステムについては、飲食できる場所が少ない天王通り沿いに飲食2店舗を誘致したことは、今後の観光客増加やまちの活性化につながるものと思われる。	B
	総合戦略への貢献度	B		
	期待した効果の達成度	B		
効率性 (30点)	コスト効率	B	必要最低限のコストで事業を運営しつつ、一定の成果を出している。また、体験プログラムの参加費などについては、参加者アンケートの結果を見ても、約8割がちょうどよいと回答しているため、適切であると判断する。	
	手段の最適性	B		
	受益者負担は適切か	B		
持続性 (30点)	必要な体制は整っているか	C	今後の自立運営に向けて、地元店舗や関係団体と連携及び支援を受けながら、事業を継続できる仕組みを構築する必要がある。	
	必要な技術はあるか	B		
	必要な財源の見通し	C		

≪今後の展開≫

- ・各種広報媒体を活用し、体験プログラム及びマッチングシステム事業を幅広く情報発信することで、体験プログラムの参加者数や出店数を増やし、津島市への年間来訪客の増加につなげる。
- ・令和元年度が計画の最終年度となるため、令和2年度以降の自立運営を見据えて事業を展開するとともに、安定的に運営できる仕組みを構築する。

担当部局： 建設産業部 / 担当課： 産業振興課